



富士橋(建設中)

# かけはし

第184号  
2023年2・3月号

発行：峡南教育事務所  
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町蹴沢771-2  
TEL:0556-22-8154  
FAX:0556-22-8144

HPでも御覧になれます。  
<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



橋の路面も整備されました。  
5月下旬完成予定です。

## 峡南地域教育推進連絡協議会（地推協） 第二回理事会

二月一七日（金）、南巨摩合同庁舎で第二回理事会が開催されました。今年度の地推協の締めくくりとなる会です。



山本純司地推協会長

会の冒頭、山本純司会長が、「今回がまとめの会となる。五年度に向けて、皆様からの様々な意見を集約しながら次に繋げていきたい。コロナの三年を経て、新しいフェーズに入っていくかと思う。良いものは変えず、変えなければならぬものは変えていくという発想の転換が必要ではないか。来年度の事業に対し、本日の会議で、皆様からの考えを頂ければ良いと思う」と挨拶を行いました。

議事では、令和四年度事業報告・会計報告（見込み）、令和五年度役員・事業計画（案）に加えて、提案が多数の期待を待っています。



遠藤賢地推協事務局長

理事から、会長・事務局に地推協の運営に対する感謝とともに、「かけはし号外は、欠席した場合も講演内容がわかるものだった。また学習会も一回減ったが、喫緊の課題を揃えて頂き勉強になった」との感想がありました。改めて、課題について認識を深め、共有することの大切さを感じました。

関係団体・地域の皆様と、共に学び場を計画していきます。多数のご参加を待っています。



### 目次：

- 地推協第2回理事会  
ことぶき勸学院  
学習活動全体発表会 1
- ことぶき勸学院  
峡南教室 2年実践発表会 2
- 学校と地域 連携の取り組み  
身延高校・身延山高校  
わかば支援学校  
ふじかわ分校 3
- 人権講演会・教育フォーラム  
学習会のアンケートから  
1年間のお礼 4

## ことぶき勸学院 学習活動全体発表会

一月二五日（水）、甲州市民文化会館において「山梨ことぶき勸学院 学習活動全体発表会」が行われました。



この会は、令和二・三年度と新型コロナウイルスの影響で中止となっていました。今回、三年ぶりの開催で各教室の二年生が参加しました。

中北教室「ハケ岳南麓の湧水」と人々とのかわり、北都留教室「日本三奇橋『名勝猿橋』に迫る」、甲府B教室「治水、信玄堤に学ぶ」、甲府A教室「身近な文化遺産を知る富岡家住宅と高室家住宅」、南都留教室「南都留地区の御神楽」伝承の継承、峡南教室「市川三郷町探訪」来て、観て、知った 市川三郷町」と題して二年生が発表



早いもので、もう1年が過ぎようとしています。感染症拡大の影響を受けてから3年になります。様々な制約を受ける中、私たちは過ごしてきました。そんな状況でも歩みを止めず、知恵を絞り、工夫を凝らし生活しています。これからも明日に向かって、進んでいきたいと思えます。

を行いました。いずれの発表も現地調査を丁寧に行い、地域を知る素晴らしい内容でした。峡南教室の発表は、四つの班の活動実践を「地場産業」「伝統文化」「歴史」「特産品」にまとめ直し、代表者四名が行いました。発表のまとめとして、「活動をおして、新たな興味を持ち、疑問点がプチ知識として得られた。今後は、『地域とのふれあい、地域貢献』という視点で活動発表に結びつける企画を模索してみたい」と話しました。発表会に引き続き、山梨を拠点に活動している上方落語家・三枝亭二郎氏による特別公演「伝統芸能落語を学ぶ」が行われました。巧みな話芸にひき込まれ、会場は笑いの渦に包まれ、身も心も温まりました。



# ことぶき勸学院 峡南教室 2年実践発表会

二月二三日(火)ことぶき勸学院峡南教室二年生の、活動実践発表会が行われました。八月から話し合いを進めて、四つの班に分かれて活動を行ってきました。全体テーマ

「市川三郷町探訪」のもと、各グループが取り組んできた、活動の成果を紹介いたします。なお、「学習活動全体発表会」では、今回の活動成果をまとめたものを発表することになっていきます。

## 一班「白雲山平塩寺と夢窓国師」

鎌倉末期から室町初期の臨済宗の禅僧・作家・漢詩人・歌人です。伊勢源氏の出で、四歳の時に一族に紛争が起り、甲斐に移りました。



平塩寺は、市川三郷町平塩岡にある甲斐源氏ゆかりの寺です(現在廃寺)。夢窓はここで、九歳から一八歳まで密教教門を学びました。その後、教外別伝の悟道に入り、五〇歳までの前半生は、修行を専らとし自利に努めました。その後七七歳の入寂までは、出世して政治の指導に任じ社会強化に尽力した他利の生涯でした。

後醍醐天皇始め、七人より国師を

授与、七朝帝師と言われています。国師は、全国を回り隠棲、多くの寺を開山し、自然景勝の枯山水庭園を残しています。県内では、恵林寺が有名です。また古長禅寺は、木造夢窓国師座像が残る、伝承のある寺院として紹介されました。

## 二班「市川の花火」

多くの資料にあたると共に、平塩寺跡、国師母の墓、宝寿院、龍山庵跡、浄居寺、恵林寺、栖雲寺など臨地研修を行っての発表でした。

黒色火薬を使う花火の歴史は、鉄砲と火薬が伝来した一五四三年以後とされています。江戸時代に、花火師、狼煙衆らが研究を進め、発展していきます。明治以降、過塩素酸カリウムが輸入・導入され、赤や緑などの色が出せるようになりました。市川大門の花火は、武田時代の狼煙が始まりとも言われています。武田氏滅亡後も徳川御三家に任せ、多いときは三〇〇軒以上が花火関連の仕事をしていました。

神明の花火は、平安時代の紙すき名人をたたえた神明社に由来します。命日の七月二〇日に盛大に花火を打ち上げたのが始まりだそうです。元禄年間には、日本三大花火の一つに数えられていました。一時途絶えていたものが一九九九(平成元)年に復活しました。



「花火ができるまで」「花火玉の大きさ」「見学後の感想」「花火師の感想」「花火師Q&A」についても発表されました。

## 三班「市川代官所」

市川代官所は、一七六五年、駿府紺屋町陣屋の出張陣屋として設置され、一七九五年に正式に本陣屋となりました。その後廃合を経て、甲斐国の幕領は三分割され、甲府、石和、市川の三分代官が幕末まで続きました。地方(じかた)とよばれる年貢徴収、民生一般事務、公事方である警察、裁判事務などが職務でした。



市川代官所が設置された明和年間から明治に至る一〇四年間に、二三人の代官が就任しています。村民に慕われた荒井清兵衛頭道はじめ、四名の代表的な代官が紹介されました。明治二年の代官所廃止以降、御陣屋の地は、役所、小学校、図書館など行政・教育・学術の中心地として役割を果たしました。現存する御陣屋門は、代官所の貴重な遺構として、町のシンボルの文化財となっています。

発表では、現存する遺構を臨地研修した様子が、写真で紹介されました。また、花火作りの隆盛と代官所

の関わりについても触れられています。

## 四班「こんな所にも寄ってって 見ろし市川三郷町」

「もっと知ろう市川三郷町」を合言葉に、四つのジャンルについて取り組みました。

○地場産業「六郷のハンコ」ハンコ産業が盛んになった経過や、「日本一のハンコの里」と呼ばれる由縁(印章に関わる要素の全てがこの地でまかなえること、今でも全国の六割以上の生産量を占めること)などが紹介されました。○伝統文化

「市川團十郎との関わり」初代團十郎の家系(堀越家)は武田家臣で、旧三珠町に居住していました。

市川家の三桝家紋は、信玄柀に由来し、堀越家の家紋、杏葉牡丹にちなみ、歌舞伎公園に牡丹が植えられているという事です。○癒しリフレッシュ

「西光寺の座禅」訪問したものの、残念ながらコロナ禍で休会中となっていました。○特産品「あんびん」小麦粉、トウモロコシ粉、サツマイモ等を練った生地であんを包み、ピンタするように叩いて形作りをするのですが、名前の由来になっているそうです。



# 学校と地域 連携の取り組み

学校と地域が連携し、特色ある豊かな学習活動が嶽南地域の各校で行われています。

学習活動を通して、子どもたちは、地域への理解や、実生活に基づいた幅広い知識・能力を育てています。地域にとっても、教育資源の活用、将来の担い手育成に繋がるといった相乗効果もたらされます。

今回は、身延高校・身延山高校・わかば支援学校ふじかわ分校からお寄せ頂いた取り組みを紹介します。

## 身延高校

身延高校「高大連携講座」は山梨県立大学と連携して、「地域活性化」をテーマに活動しています。昨年度は歴史や自然の観光資源に着目し、身延の歴史的な文化遺産である、古道「みのぶ道」の活用を町に提案しました。今年度も引き続き、「観光活性化」をテーマに活動を進めています。五月末には身延町役場生涯学習課主催の「みのぶ道を歩こう」ワークショップに参加しました。

みのぶ道に関する歴史や伝説について学びながら、久遠寺三門から大本堂裏まで徒歩で登りました。みのぶ道は静岡県興津から甲府市の平和通りまで続く。

古道です。大変険しい山道を散策しなければ、見ることでできない文化財に出会えた貴重な体験となりました。

また今年度は「観光活性化」を軸に、「歴史班」「宿泊・リノベーション・移住促進班」「アクティビティ班」「情報発信班」の四班に分かれ、身延町下部地域の観光分野の研究を深めています。下部地域には温泉をはじめ、県外にも広く発信できる様々な魅力があります。十二月には、旧下部中学校で開催された「家庭キャンプ」のイベントを見学し、主催された五条ヶ丘活性化推進協議会の方にインタビューをしました。

これからも取材やフィールドワークを通じて、地域の様々な方々に協力をいただきながら、下部地域や身延町の魅力を掘り上げていきたいと思えます。高校生が発信源になり、地域を盛り上げることができるような実践活動をしていきます。

## 身延山高校

身延山高校では様々な場面で地域との活動の場を広げています。本年度行った地域連携の一端をご紹介します。

○身延中学校での

ドイツの紹介・ドイツ語講座  
令和五年一月一三日(金)、身延中学校の二年生に出張授業を行いました。講師は九月から本校にきている留学生が務めました。ドイツの文化や自然、サッカー、産業、SDGsなどの内容を日本語で紹介しまし

た。またドイツ語を、クイズを使って中学生とやりとりをしながら上手に教えていました。

入まで、仔細なアドバイスを頂けありがとうございました。当日は来校された三名の方に植え方を教えていただき、土いじりが大好きな子どもたちは大満足でした。芋がちゃんと生長するか心配しましたが、十一月には、地域の方も驚くような大きな芋が沢山収穫でき、児童も歓喜の声をあげました。昨年も同じ地域の方々との交流だったので、互いに顔なじみになり、名前を覚え、交流後も学校外で声を掛け合う関係となりました。全校でその後焼き芋集会を開くことができたのも大きな成果です。



身延山高校の手話コミュニケーション部は毎年県内外の小中学校や施設、地域イベントなどで手話教室を行っています。手話の普及を目的として、手話教室では手話クイズを取り入れたり、手話歌のレクチャーをして一緒に手を動かしてもらったりと楽しく手話が学べるよう毎回生徒たちが内容を工夫しています。嶽南地域では今年度、睦合小学校や栄小学校、身延中学校等で開催しました。

本校では他にも雅楽部による幼保・小・中への出張教室や町内イベントへの参加も行っています。また「利他(ボランティア)活動」としてみのぶ荘清掃やフードドライブ活動、来年度からはユニクロとの「服のチカラプロジェクト」が始まる予定です。

わかば支援学校 ふじかわ分校では、中部区活性化プロジェクトの皆様にこそ来校いただき、学校の畑で、小学部児童十一名と、春にサツマイモの苗植えを、秋にはそのサツマイモの芋掘りを行いました。芋作りにかけては大ベテランの地域の皆様から、まずは畑の畝づくりから苗の購

また、中学部生徒は、鰻沢奉仕活動の会から六名ご来校いただき、チームを組んでパラソポーツのポツチャを楽しみました。奉仕の会の方は全員ポツチャ未経験でしたが、一緒にやりながらすぐにコツを掴み、ハイスコアを競う白熱した試合が展開されました。生徒に優しく声掛けしていただき、チーム内で応援しあうなど楽しい交流ができたと思えます。年齢差や体力差があっても夢中になれるパラソポーツの良さを知る機会となりました。後日手縫いの雑巾も沢山いただき、毎日の清掃活動に使用しています。

地域の方々が好意的で、散歩時の声掛けなどいつも温かい目配りを感じる教育環境に感謝しています。



# 人権講演会・教育フォーラム 学習会のアンケートから

前号の「かけはし」で、「異校種連携・子育て学習会」のご感想を紹介しました。これまでの学習会でも、多くの方からご感想をいただいております。内容からは、地域・関係機関の連携、課題の共有の大切さ等、峡南地推協の取り組みに理解を示すご意見が多く見られます。

紙面の関係で紹介が遅くなってしまいました。ご感想等は、講師の先生方にも、全てお知らせしていただいております。来年度の学習会においても、多数のご意見・ご感想をお寄せくださいますよう、お願いいたします。

なお、各学習会のご感想等は、講師の先生方にも、全てお知らせしていただいております。来年度の学習会においても、多数のご意見・ご感想をお寄せくださいますよう、お願いいたします。

## 七月五日 人権講演会

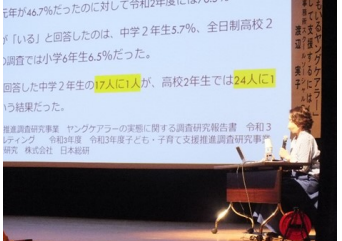
「あなたの近くにもいる

ヤングケアラー」

〜連携して支援するには〜

・学校現場においても、「寄り添う」ことの大切さが繰り返し伝えられています。

今日の講演を伺って、ヤングケアラーの問題への対応としても、必要なことだと改めて感じました。子どもも成長に関わ



る仕事をする者として、「信頼される大人」となり得ているか、常に自分に問いかけていきたいと思えます。

・演題のヤングケアラーにとどまらず、子どもの人権を守るためには、子どもの成長軸に沿った支援を関係各所と連携して行う事の重要性を再認識した。学校では児童生徒への働きかけはできるが、親や家庭への働きかけは難しい。行政、民間問わず、どのような支援体制があるのかを、事前に整理しておく必要があると感じた。



休みがちである、宿題をいつも忘れてくる、服装がいつも同じである等、課題を抱えた子どもを見ると、つい「あそこの家庭は…」と親の子育て能力の批判をしてしまいがちです。本日はありがとうございました。

・当事者である子どもにとって、なかなか本音が話づらいということとを改めて認識しました。子ども達へSOSを出せるような声かけをしていきたいと思えます。本日はありがとうございました。

・なぜSDGsなのか分かりました。現実問題として人類は厳しい状況に置かれていることを自覚しました。良い講演を聴くことができても、それができても、全世界の共通課題だと思えます。その推進のために教育が担う役割は大きいと思えます。その意味からも教育関係者がSDGsへの理解を深めることはとても有意義でした。

## 八月二日 教育フォーラム

「SDGsって、何？」

〜家で、地域で、学校でできるSDGs〜

・持続可能な社会を創造していくことは、全世界の共通課題だと思えます。その推進のために教育が担う役割は大きいと思えます。その意味からも教育関係者がSDGsへの理解を深めることはとても有意義でした。



・SDGsという言葉は聞いたことがありますが、詳しくはわからなかったのですが、今日の話を聞いて私達に出来ることを少しでもしなければと感じました。

・保育園児は、まだ小さいので難しいと思うのではなく、園児にも出来ることがある。私達が考え方を変えていかなければと考えさせられました。他の職員にも研修報告をしてみんなで考える機会を持ちたいと思えます。ありがとうございました。

・SDGsについて知るところから、自分たちに身近なものだという実感を得られるような部分が良

かったです。(自分の意見を話したり、チャットで他のグループの意見を見られるのも良かったです。)



SDGsについて、根本的なことや現在の状況などはよくわかっていかなかったし、関心はあるけど、何から始めていいのか、学校ではどんなことをやっていくのがいいのか、イメージできなかった。短い時間で、きっかけとなるようなものだけだったかもしれないが、何か始めて見ようという気持ちになれた。

一年間のご愛読、取材へのご協力、誠にありがとうございました。

峡南地域情報誌として、皆様の活動の紹介や、地域連携の一助になればとの思いで発行して参りました。

峡南地域には、地域教育を支える多くの方がいらっしやいます。取材を通して、沢山のつながりを持つことができたのは、私達にとって大きな宝となりました。

今後地域教育推進に向けて、微力ながら取り組んで参ります。

ご支援・ご協力をよろしくお願いたします。